



異性装、服装倒錯は禁断を犯すこと、社会の秩序を逆転させること。笑いをとるのは、道化に通じるかもしれない。みんなの異性装劇プロデューサーが最後に明かす、たくらみ秘話。

異性をまとう

久保 正敏 民博文化資源研究センター

心理的には誰でも両性具有

異性装、または服装倒錯は、性心理学の分野で一般に、性的興奮を得るため異性の衣裳を着たい、あるいは着せたいという願望から生じるという。また、ジェンダー・アイデンティティ障害を抱える人にもそうした願望が生まれる。

性心理とは異なる文脈でも異性装は多い。宗教的な場面で特に男児に女装をさせて宗教的役割を担わせる、あるいは魔物に子どもを奪われたいような中性的な衣裳を着せる事例がある。西洋では男児に罰を与えるために異性の服を着せる「ペティコートの罰」もみられるようだ。もちろん、芸能の世界だと、すべて男性が演じる歌舞伎、その真逆の宝塚歌劇団、女性も舞台上立つようになったが、依然女形が健在の中国の京劇など、確立したジャンルは周知のとおりである。

そうした人びとを茶化すつもりは毛頭なくとも、遊び心から、ときには別の自分に変身したいという願望は、じつは誰にでもあるようだし、コスプレもそのひとつだろう。いわば、心理的には誰でも両性具有といえるかもしれない。

介されたり、テレビ番組「11PM」にとりあげられるなどで有名となり、今では東京近辺の米軍基地関係者がバスを連れて押しかけ、お花見を兼ねた大勢の地元の人たちと混じり合い、あちこちで笑い声があがる、まことに大らかで賑やかなお祭だ。エリザベスは、専門メイクアップアーティストを擁する本格的な女装クラブだが、この祭においては笑いをとるのが主眼のようで、見まがうほどしつかり女装している訳ではない。

男装の麗人への女装

わたし自身も、笑いをとる目的で、高校時代に文化祭でのクラスの演し物に、男女すべて衣裳を逆転した「西遊記」をプロデュースし、級友のノリが良くて大成功。民博奉職後も、年末におこなわれるパーティーでは同僚を巻き込んだ異性装コント「修浦島」「眞作白雪姫」などをプロデュ



新体操 (2000年)
日本製には合うものがなく、オーストラリア調査の際にわざわざ入手したXXLサイズのレオタードを着用したわたし

趣味としての女装クラブ
趣味として女装する人たちが集まるクラブ組織も存在し、日本では一九七八年創業の老舗「エリザベス」が有名だ。この存在をわたしが知ったのは、秘宝館調査の一環で、川崎市は金山神社の「かなまら祭」取材したときである。

鍛冶の守護神である「かなまら」すなわち金属製男性器がご神体のこの神社は、鉄工業や金物店の多いこの地域で信仰を集め、同時にフィゴや火床は性とかかわるため、下の病除けや夫婦円満でも信仰も集めている。この神社で毎年四月の第一日曜日、満開の桜の下で大々的におこなわれる「かなまら祭」、そのクライマックスには男性器を乗せた神輿が商店街を練り歩くが、エリザベスもピンク色の「エリザベス神輿」を金山神社に奉納してあり、祭の際にはエリザベスのメンバーたちがそれを引き出してかつぎ「かなまら! でっかい○○」とかけ声をかけて行進に加わる。

この祭は、近くの羽田に進駐していた米軍の英字新聞に奇祭として紹介してきた。近年は、自身で女装瞬間芸を披露し、結構受けをとっている。昨年末には、宝塚歌劇団創設二〇〇周年に引き寄せて、「ベルサイユのばら」のオスカルを演じたが、この場合、男役の演じる男装の麗人にわたしが扮するのは、二重の倒錯といえるのか?

儀礼の場面など、日常秩序が一時的に解体してから再び日常にもどるまでの境界的状况を、英国、後に米国の文化人類学者ターナーは「リミナリティ」と名付けたが、わたしは象徴二元論で割り切れないこの境界領域にこそ文化の機微が宿ると考えている。そういえば、宝塚に育った手塚治虫も、宝塚歌劇に触発されてか両性具有をテーマとする『メトロポリス』や『リボンの騎士』を描いた。もともとわたしの場合は、単に関西人らしく笑いをとり、レジェンドとして語り継がれば目的は達せられるのだが。



ドイツの写真家ヴィルヘルム・フォン・グレーデンが撮影した女装した少年。Scilian dress (a boy disguised as a girl)。Taormina, circa 1895年



幕末から明治前期の画家、月岡芳年(つきおかよしとし)が描いた女装した小碓皇子(おうすおうじ。倭健命(ヤマトタケルノミコト))。月岡芳年『月百姿』より「賊巢乃月 小碓皇子」1886年



かなまら祭のエリザベス神輿 (1995年)



大正女学生ロマン (1997年)
岐阜県恵那市明智町の日本大正村見学の際に天啓を得て年末パーティーの司会を務めるわたし